

訳者あとがき

本パターンの内容は、パターン記述中にあるとおり、開発方法論の一部として補われるべきものです。この「分析から設計まで」の過程というのは、特に今日注目を集めているアーキテクチャ設計との関わりにおいて重要です。それでも、訳者の薄学のせいもあり、この過程についての記述を目にしたのは、これが初めてでした。本パターンでは具体的な設計判断まで踏み込んでいる点から、著者のプロセスに対する真摯な姿勢が伝わります。この記述は、実務におけるアーキテクチャ設計の指針として得がたい貴重なものと思います。

また、著者は構造化技法に造詣が深く、本パターンで記述される技法にも一見して構造化技法の影響を見て取れます。ただし、ここでの構造化技法の取り上げ方は、それで育ってきた人をオブジェクト指向に移行させるための、対症療法的な便法としてではありません。本パターンで対象とされるアーキテクチャのようなマクロレベルの構造において、構造化技法の美点が引き立つことを達観した上で、慎重にそれを取り入れています。このパターンが書かれた時期にそのことを見抜く洞察と、そしてそれを公表された勇気に、訳者は畏敬の念を禁じ得ません。

また、パターンランゲージの例として素晴らしいと思います。本パターンが記載されていた PLoPD1 は、米国 PLoP から最初に出版されたパターン集です。そうしたパターンコミュニティとしての黎明期に、高い完成度をもつパターンランゲージを完成されていたことも驚愕に値します。

願わくば、わが国における適用事例も著者である Kerth 氏の元に届けたいと思います。本パターンを適用された暁には、訳者まで是非ご一報ください。集約して Kerth 氏にお伝えしようと思っています。

2000年2月6日、東京自宅にて

友野晶夫